

環境ユースインターンシップ (北海道地方視察)を開催しました

2024年度全国ユース環境活動発表大会で「10周年記念賞」を受賞した7校の高校を対象に、北海道における持続可能な環境保全活動に係る現場を視察するインターンシップ（1泊2日（2025年8月6日～7日））を開催しました。

下川町視察

下川町は面積の約90%を森林が占めており、循環型の森林経営やゼロエミッション（廃棄物ゼロ）の木材加工など、低炭素型の町づくりに取り組んでいます。循環型森林経営の現場である町内森林、ゼロエミッションを目指し木材を余すことなく資源として活用する木材加工場、木質バイオマスボイラーを活用した熱供給システムのプラントを見学しました。



環境学習交流会

「環境×○○」のかけ算による、持続可能な未来の共創に関するアイデア出しと、自分たちが今後実践する行動宣言を検討するワークショップに取り組みました。環境問題に対する自分自身の想いや立場の違いを尊重しながら、多角的な視点で対話を行い、最後に各グループでの検討結果や行動宣言を全体で共有しました。



旭山動物園視察

北海道には森林、湿地、湖沼、河川、海洋など多様な生態系が広がっており、北方系と南方系の動植物が同時に見られる特有の生態系が形成されています。園内展示を見学し、北海道における外来生物が与える影響や対策状況について学び、自分たちが自地域で実践できることを考えるグループワークに取り組みました。



1
目
目

2
目
目

参加した高校生からは、アンケートで以下のような感想が寄せられました。（一部抜粋・編集しています）

- 下川町では1人1人がSDGsに取り組む姿勢がすばらしいと思った。また、森林を軸とし、木1つで様々な形に姿を変えて利用していることがすばらしく、真似すべき活動だと感じた。
- 環境学習交流会では、理想とする未来についてたくさんの意見が出たが、行動するとなると難しいものが多かった。しかし、家に帰ってすぐのできるものもあり、誰もが簡単に取り組めることから始めたいと思った。
- 旭山動物園の見学を通して、環境は生物や動物にも関係することを改めてしっかりと理解することができた。「エゾヒグマ」や「エゾシカ」や「オオワシ」など、北海道固有のめずらしい動物を守っていかなくてはならないと思った。
- 他校の人たちと意見を交換したり、交流したりする時間が多くとられていたため、友達作りや繋がり構築にとっても有意義だと感じた。

持続可能な社会の実現に向けて取り組みが進められている現場や、それを支えている地域の方々の想いや熱意に触れるとともに、他校の高校生との交流などを通じて、刺激を受ける良い機会になったことと思います。持続可能な社会の実現に向けて、高校生の皆さんの環境保全活動をこれからも応援しています。

